

多文化共生で誰もが住みやすいまちへ 「地域日本語教室 KIZUNA」開催

小林市の外国人市民は年々増加しており、宮崎市・都城市に続いて県内で3番目に多くなっています。

このような状況のなか、国や文化の違う人たちの多様性を認め、持続可能な多文化共生社会を実現するため、「地域日本語教室 K I Z U N A」を開催しました。

この教室は、外国人市民のコミュニケーション・交流支援を目的としており、昨年11月から今年2月にかけての全7回に、市内に住む18人の外国人市民が参加しました。

また、外国人市民と一緒に交流活動を行うボランティアを養成する「地域日本語教育サポーター養成講座」も開催しており、第3回・第5回の教室では、外国人市民とサポーター養成講座参加者の交流が行われました。



防災について学び危機に備える



12月4日の第3回は、「外国人のための防災セミナー」をテーマに開催。熊本地震を体験した外国人の体験談を聴き、外国人市民にとっての防災について考えました。

また、地域日本語サポーター養成講座の参加者のサポートを受けながら、防災マップで自分の住む地域の避難所を確認したり、防災グッズとして準備しておくべきものなどを確認しました。

サポーター講座参加者とまちを散策



1月8日に開催された第5回は、K I Z U N Aに参加する外国人市民9人と地域日本語サポーター養成講座参加者15人が3チームに分かれて市内を散策。

赤松通りやTENAMUビルなどを訪れて便利なお店や施設の案内を受けたほか、交番の位置などを確認するなどして、まちを歩きながら日常生活に役立つ知識を学びました。

Interview ～ KIZUNA に参加した外国人市民に話を聞きました～



クローデット・エスカブーサさん
(フィリピン出身、左から2人目)

小林市に来て2年。これから先も長く暮らすことになることや、地域に友人を持つことをイメージしたとき、子どもたちの先生や友だちが一生懸命私たちと繋がろうと努力してくれているように、私たちも周りの人と繋がる努力をしたいと思い、K I Z U N A に参加しました。

K I Z U N A は、さまざまな年齢や背景を持った人が誰でも参加できます。教室は気楽な寄り合いのようなもので、地元の人と話をしたりできるのと同時に、他の外国人市民と出会う機会にもなっています。

教室に参加して、日本語や日本の文化、そして2番目の故郷でもある小林についていろいろなことを知ることができました。



土地改良区統合整備推進協議会の大部実男会長は、「合併で負担が軽くなり、農業に取り組みやすくなる。力を合わせて取り組んでいきたい」と話していました

合併による組織強化で農業を守る 9土地改良区が予備契約に調印

2月8日、西諸県農業改良普及センターで小林市土地改良区合併予備契約書調印式が行われました。合併は、少子高齢化などによる農業従事者の減少に対応し、組織運営や財政基盤を強化することを目的としたもので、市内に13ある土地改良区のうち9土地改良区が参加。今後、規約の整備などの準備を進め、令和5年4月に合併予定です。

創立70年を記念し県内全市町村へ寄付

電設資材の販売を行う米良電機産業株式会社（米良充典代表取締役社長）が、創立70周年を記念し、県民への恩返しとして県内26市町村にそれぞれ70万円を寄付しました。1月28日には寄付贈呈式が行われ、市長会長と町村会長に目録が贈呈されました。



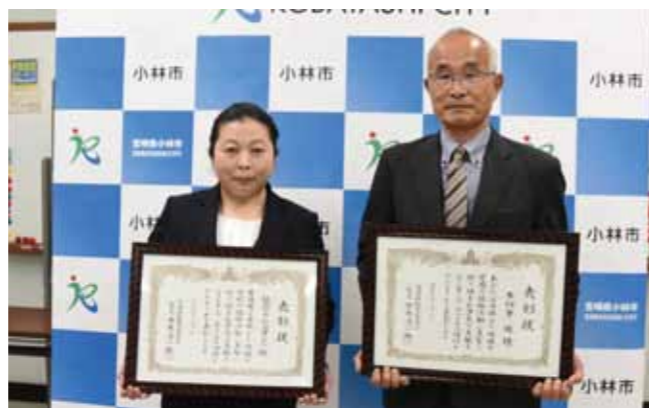
安全に暮らせる地域を目指して

地域の交通安全活動に積極的に取り組んだ団体として、小林地区交通安全協会野尻支部が、宮崎県交通安全協会の交通安全功労団体表彰を受賞しました。下村孝一支部長は「地域の安全を守るため、これからも啓発活動を続けます」と話しました。



地域全体で子どもたちを育てる 団体や個人を表彰

2月1日、地域全体で子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動を表彰する「地域学校協働活動」県教育庁表彰が行われ、「読み聞かせたんぼぼサークル」（代表宇藤山香さん）（写真㊤）と三松中ハンドボール部の指導者木切倉進さん（写真㊦）が受賞しました。両者とも長年の子どもに寄り添った活動や指導が評価されました。



宇藤山さんは「子ども一人ひとりの成長に関わっていることを常に忘れずに活動しています」と日頃の活動を振り返りながら、受賞の挨拶をしました

春の訪れを告げる野焼き

1月22日、国指定の天然記念物「エヒメアヤメ」自生地で野焼きが行われました。当日は「エヒメアヤメを守り育てる会」（大藪良一会長）の会員や協力団体、関係者など約60人が参加。自生環境の整備を行い、3月～4月の開花時期に備えました。



ライオンズクラブ寄贈

2月3日、小林ライオンズクラブ（八反禎一郎会長）が新入学生用のランドセルカバー約420枚を寄贈しました。八反会長は「子どもたちの安全な登下校を願って贈ります」と想いを述べました。カバーは市内の全小学校の新1年生に配布されます。



キャリア教育支援センターが 優良団体として文部科学大臣表彰受賞

1月25日、小林市キャリア教育支援センター（藤田英二センター長）がキャリア教育に取り組む優良団体を表彰する文部科学大臣表彰を受賞しました。同団体は、たくましく社会を生きる子どもを育成するため、学校や地域、企業と連携。社会人と中高生が職業観・人生観を語り合う「小林近未来ハイスクール」などを開催してきました。



藤田センター長は、「5年間の活動が認められうれしい。持続可能なまちづくりには人づくりが不可欠。今後も取り組みを続けていきたい」と話していました

須木小児童が100人取材し 地域を元気にするPR動画を制作

須木小5年の児童7人が制作したPR動画が学校ホームページで公開されました。児童たちが昨年9月から須木地区でがんばる100人に取材したもので、県内外に須木をPRする目的で動画を制作しました。教科担任の前口晶先生は、「地元でがんばる人を知り、触れ合うことで、児童に須木への思いや考えを醸成したい」と話していました。



秋のほぜまつりでは農産加工業者に話を聞いたほか、イベント時・授業の時間を使うなどして、地区内のいろいろな場所で多くの人と触れ合いました



さまざまな経歴を持つパネリストが、「西諸に移住した理由」や「西諸での仕事」、「西諸の好きな場所・モノ・人」について語り合いました

西諸で暮らす面白さを考える にしもろ2分の3成人式開催

1月30日、30歳前後の西諸出身・在住者を対象にしたトークイベント「にしもろ2分の3成人式」がオンラインで開催されました。Uターン機運醸成や地域への愛着を高めてもらおうと、西諸2市1町の若手職員でつくる実行委員会が企画。25人が配信を視聴し、さまざまな業種で活躍しているパネリスト3人の話に耳を傾けました。



小林警察署の河野署長（写真㊤）は、「学校や郵便局と一致団結し、将来を担う子どもたちの安心・安全を守り抜きたい」と話していました

警察・学校・郵便局が一致団結し 子どもたちを犯罪から守る

2月14日、小林警察署（河野博之署長）と市教育委員会（中屋敷史生教育長）、小林郵便局（大久保憲一局長）は「てなんでもみまもっど連携協定～子供を犯罪から守る活動に関する協定」を締結しました。不審者情報などを共有し、郵便配達中に見守りを行うことで、児童虐待や声掛け事案などの犯罪から子どもを守ることを目指します。